

本大学院で身につけるスキルの選定(案)

医師臨床研修医制度にもとづく初期臨床研修で経験すべき診察・検査の手技との対比

臨床現場でのNP養成のための教育内容を設定する。
 ○のレベルは通常の看護教育で教授していた内容である。
 ◎のレベルは保助看法には抵触せず、教育によって看護師が現状より質的に高い実践を行える教育内容であり、基本的な身体診察法、検査の必要性の判断と検査データの一次評価、事前の医師の指示による処方や処置などの教育内容とする
 ☆は条件付けによって保助看法に抵触するものではないと考えられ、教育によって看護師がスキルミックスとして獲得できる20項目の教育内容とする
 ×は、本大学院では教育せず、医師あるいは他のコメディカルに限定したスキルとする

A 経験すべき診察法・検査・手技

I 基本的な身体診察法

1	全身の観察と記載	◎	より正確なフィジカルアセスメントにより診断技術として修得する
2	前頭部の診察と記載	◎	
3	胸部の診察と記載	◎	
4	腹部の診察と記載	◎	
5	骨盤内診察と記載	◎	
6	泌尿・生殖器の診察と記載	◎	
7	骨・関節・筋肉系の診察と記載	◎	
8	神経学的診察と記載	◎	
9	小児の診察と記載	◎	
10	精神面の診察と記載	◎	

II 基本的な臨床検査

1	一般尿検査	◎	検査の必要性の判断とデータ評価
2	便検査	◎	検査の必要性の判断とデータ評価
3	血算・白血球分画	◎	検査の必要性の判断とデータ評価
4	血液型判定・交差適合試験	◎	ルーチンではないが緊急時に輸血の必要性を一次評価し、交差用採血、クロスマッチの施行 最終判定はしない
5-1	心電図	◎	通常的心電図の施行とデータの評価(異常の発見)
5-2	負荷心電図	◎	病状に基づく負荷の程度の判断、施行とデータの評価
6	動脈血ガス分析	◎	検査の必要性の判断とデータ評価も含む
		☆	画像支援下の動脈血採血 神経損傷のリスクのない動脈血採血に限定
7	血液生化学的検査	◎	検査の必要性の判断とデータ評価
8	血液免疫血清学的検査	◎	検査の必要性の判断とデータ評価
9-1	細菌学的検査	◎	検査の必要性の判断とデータ評価
9-2	薬剤感受性検査	×	医師により施行
10	肺機能検査	×	検査技師により施行
11	髄液検査	×	医師により施行
12	細胞診・病理組織検査	×	〃
13	内視鏡検査	×	〃
14	超音波検査	◎	緊急時の検査指示と検査の施行、データの判断はしない
15	単純X線検査	×	放射線技師により施行
16	造影X線検査	☆	造影剤の点滴の施行に限定
	造影X線検査	◎	検査データの読影による一次評価
	血管造影検査	◎	カテーテル挿入時の医師の介助

B 特定の医療現場の経験

救急医療

1	バイタルサインの把握	○	
2	重症度および緊急度の把握	☆	緊急時のトリアージに限定
3-1	ショックの診断	◎	ショック症状であることの評価
3-2	ショックの治療	◎	医師が到着するまでの初期対応
4	二次救命処置の実施と一次救命処置への指導	×	
5	頻度の高い救急疾患の初期治療	☆	初期対応に限定
6	専門医への紹介	×	
7	大災害時の救急医療体制への理解	○	

C 上記以外の治療法での経験

I 化学療法

1	抗ガン剤の投与計画の作成	◎	医師とともに参画する
2	抗ガン剤の処方	×	
3	点滴ルートの確保	◎	医師の指示により確実なルート確保
4	抗ガン剤の投与、ポートからのフラッシュ	◎	
5	副作用出現時の説明と生活指導	◎	
6	副作用出現時の症状緩和の処方	☆	パスとして包括的指示のある場合に限定

II 放射線療法

1	マーキングの部位の管理	○	
2	放射性皮膚炎の薬剤処方	☆	複雑な感染を伴わない皮膚障害の場合に限定する
3	副作用出現時の説明と生活指導	○	
4	副作用出現時の症状緩和の処方	☆	パスとして包括的指示のある場合に限定

III 手術療法〔手術前〕

1	術前データに基づく面談	◎	インフォームドコンセントがより納得して得られるようにする
2	術前、前投薬の処方、施行	×	医師により施行

〔手術中〕

3	術中の麻酔管理、呼吸管理	☆	麻酔導入後、状態安定後に限定
4	医師の助手	○	現行の直接介助としての看護業務

〔手術後〕

5	術後の酸素療法の流量、濃度の調節	◎	
6	硬膜外チューブからの鎮痛剤の投与	☆	タイムリーなペインコントロールを要する場合に限定

IV 食事療法

1	経口摂取ができない対象の食事摂取方法の選択	○	
2	食事方法に関する患者・家族への説明	○	
3	経管栄養のカテーテル挿入	○	
4	閉塞時のカテーテル交換	◎	
5	胃ろう、腸ろうの管理、チューブの入れ替え	☆	緊急を要する場合に限定

D 助産(看護基礎教育)

1	NST施行と判断	◎	
2	分娩監視装置の装着と分娩経過の判断	◎	
3	妊婦健診(超音波による児の成長の評価)	◎	

17	X線CT検査	☆	放射線技師により施行、造影剤を用いる場合、指示による造影剤の点滴施行に限定
18	MRI検査	×	放射線技師により施行
19	核医学検査	☆	放射線技師により施行、造影剤を用いる場合、指示による造影剤の点滴施行に限定
20	神経生理学的検査	×	臨床検査技師により施行

III 基本的手技

1	気道確保	○	救急患者の搬送時、外来あるいは病棟での急変時、医師と分担して積極的に実施し、救命活動を実践する
2	人工呼吸	○	
3	心マッサージ	○	
4	圧迫止血法	○	
5	包帯法	○	
6	注射法	○	
7	採血法	○	
8	穿刺法		
	骨髄穿刺、腰椎穿刺	×	
	胸腔穿刺、腹腔穿刺	☆	排液後、医師に確認し場合の穿刺針の抜去に限定
9	導尿法	○	通常の看護技術の内容
10	ドレーン・チューブ類の管理		
	術後のドレーン接続	◎	胸腔ドレーンを除くドレーン類の接続
	術後のドレーン抜去	☆	医師に確認後、術後のガーゼドレーンに限定
	持続吸引の吸引圧の管理	◎	事前の医師の指示の範囲で吸引圧の調整
11	胃管の挿入管理	○	通常の看護技術の内容
12	局所麻酔法	×	
13	創部消毒とガーゼ交換	○	
14	創傷処置		
	簡単な切開・排膿	☆	直視できる皮膚に対する皮膚表層への処置に限定
	検査データによる創感染徴候の予知と薬剤処方	☆	〃
	不良組織の判断とデブリードマン	☆	〃
	抜糸	☆	縫合状態が良好な単純創に限定
15	皮膚縫合法	☆	直視できる皮膚に対する皮膚表層への処置に限定
16	軽度の外傷・熱傷の処置	◎	皮膚表層への処置に限定
17	気管内挿管	◎	気管内チューブの選択について一次評価
18	除細動	○	

IV 基本的治療法

1	療養指導	○	
2	薬物治療	◎	緊急時、事前の医師の指示により処方
3	輸液	○	
	静脈ラインの確保	◎	留置心の刺入によるルート確保
	中心静脈ラインの確保	☆	超音波ガイド下の穿刺に限定する
4	輸血	◎	医師の指示によりすべての患者への施行

チーム医療推進に関する検討課題

1) 医師の包括的指示と看護職の自己裁量権

- ・医療現場との関係
- ・どのような教育を受ければ、何が可能か

2) 高度診療能力を有する人材の育成と資格の認定

- ・修得すべきスキルの選定
- ・大学院教育の位置づけ

3) Physician assistant は看護職か